

# リヤカーマン 支えたタイヤ

## 名古屋のメーカー開発「1万キロでも平気」

リヤカーを引きながら、6月に世界一周を果たした男性がいる。この「リヤカーマン」を支えたのが、名古屋市のお舗タイヤメーカー「井上ゴム工業」だ。小回りが利くリヤカーは、経済的で環境に優しいと都市部で見直されており、タイヤの新たな市場も生まれている。

リヤカーで世界一周に成功したのは、鳥取市の吉田正仁さん(32)。2009年1月に単独で中国・上海を出発し、ユーラシア大陸を横断。北米や豪州を経て、東南アジアを北上した後、今年6月9日に上海に到達した。約4年半、約4万キロの旅路だった。



「バスや電車では素通りしてしまう小さな村を訪れ、そこで暮らす人たちと出会った。衣食住の全てを運ぶのに最も適していたのがリヤカーだった」。吉田さんは、零下20度のブルガリア山中で凍傷を負って入院。無人の砂漠250キロを、水と缶詰を頼りに5日間で越えた。

旅の途中、予備のタイヤがなくなり、中国やタイ製のタイヤも使ってみたが、水や食料など100キロの荷物を積んだ状態では、最長で約30キロ進むとパンク。吉田さんは、「井上ゴム工業のタイヤは、5千〜6千キロは問題なく歩けた」と話す。カナダの自転車屋では、「見たことがないほど強いタイヤだ」と驚かれた。

開発に携わった同社の山田浩志さん(37)は「耐久試験では1万キロを走らせても大丈夫だった。当然です」。ただ、08年に吉田さんからタイヤ作製を頼まれた時は迷った。同社は約90年前から自転車用タイヤをつくり、国内シェアの約2割を握るが、リヤカーのタイヤは初めてだった。

それでも挑戦したのは、市場の拡大を見越したからだ。リヤカーを使った宅配業者の配送は、全国で拡大中。オフィス街や繁華街など集配先が密集する都市部では、トラックよりも小回りが利き、効率がいい。

リヤカーの牽引には電動自転車が使われ、新聞や飲料の配達にも広がってきた。バッテリーを積んでおり、普通の自転車より4割ほど重い約25

キロ。丈夫なタイヤが重宝される。リヤカーにも電動自転車にも、同社のタイヤを使ってもらえば――。井上ゴム工業は、吉田さんの世界一周が耐久性の証明になると判断した。

タイヤの「骨格」のナイロンの布を、従来の2重から4重にしてパンクしにくくした。ゴムには、重さや長距離走行にも耐えるトラックやバスのタイヤに使う成分を加え、反発性を向上。車体の重みで丸いタイヤが平らになり、前に進むエネルギーが失われる状態に陥りにくいようにした。

1年後、商品名「足乗プロ」を完成。電動自転車向けに10年4月から約4万6千本を売った。電動自転車の国内市場は昨年約40万台だったが、5〜6年後には100万台に増えるとみている。

### リヤカー配送 都市部で増加

リヤカーや電動自転車による配送は、都市中心や住宅の密集地で増えている。

ヤマト運輸は、名古屋市中・栄地区の18店舗で8年前から、人力で運ぶ台車を探り入れ、現在は39台まで増やした。リヤカーが後部についた電動自転車1台もあり、主に住宅街の配送にあたっている。全国では台車は4千台、リヤカー付き電動自転車は1600台にのぼる。1台につき1日平均500個の荷物を運ぶ。

佐川急便も数年前から、「駐車問題や渋滞を気にしない」「環境にもいい」との理由で、電動自転車や人力でリヤカーを引く配送を導入。全国で約2000台まで増やしている。(奈良部健)



リヤカー世界一周に使われた井上ゴム工業のタイヤ「足乗プロ」。名古屋市中区



リヤカー世界一周の旅で豪州を訪れ、海沿いの道を歩く吉田正仁さん。吉田さん提供

### 世界一周達成